



YMCA 大阪青年

10

2022年10月1日発行
1916年6月1日創刊
発行/小川 健一郎
編集/大阪 YMCA 広報室
〒550-0001
大阪市西区土佐堀 1-5-6
Tel 06-6441-0894
Fax 06-6445-0297
URL: <http://www.osakaymca.or.jp>

2022年に大阪YMCAは創立140周年を迎えました



YMCAの英語教育・国際理解教育

この春、私の息子があるプロバスケットボールチームのユース部門に挑戦しました。その説明会で、コーチが英語学習の重要性を強調していました。バスケットボールは国際的なスポーツなので、英語ができると海外でのトレーニングや試合、就職の機会が増える、という話でした。日本の教育界やビジネス界以外の人々が、英語や国際的な考え方の重要性について話すことは新鮮でした。

8月上旬には岐阜県でチームが出場するバスケットボール大会があり、家族で観戦に行きました。緑の木々と新鮮な空気に囲まれ非常に良い環境だったのですが、帰宅途中、私の目が赤くなり腫れてきたので、帰宅後、眼科を受診しました。はじめは日本語でやり取りしていたのですが、なかなかうまくいきません。すると、先生は突然、流暢な英語で "Would it be better if we speak English?" と聞いてきたのです。先生の英語力の高さに驚きましたが、科学や医学の知識は英語で記録され、共有されているので、それほど驚くことではないと後に思いました。

最初のコーチの話は、日本で教育やビジネ

ス以外の分野に携わる人々が、英語を使うことで世界が舞台になるという発想を持ち始めている例です。二つ目の医師の話は、世界の専門的・科学的知識の多くが、国境を越えて英語で共有されていることを示しています。

国際的な言語を専門用語で「国際共通語」といいます。他のどの言語よりも、英語は世界の共通語となっています。21世紀に入ってから、多くの重要な知識が英語で保存され、国際的に伝達されているので、その重要性は否定できません。英語は真にグローバルな唯一の言語と言って良いと思います。

このような社会状況の中で開校したのが、大阪府立水都国際中学校・高等学校です。大阪YMCAが運営するこの公立学校は、英語教育と国際理解教育の充実を大きな使命としています。

生徒たちは、学校内外の活動で、英語を熱心に学び、使っています。英語や国際理解が重要であることを、生徒や保護者はよく理解しています。世界120の国と地域に展開するYMCAのネットワークを使いながらよい機会を提供すること、世界とうまくつながることが、私たち

の課題です。この夏には校長と教頭がホノルルYMCAの協力を得て姉妹校提携や大学進学を目的にハワイに行ってきました。これらの試みは生徒だけでなく、日本の教育全体にとっても重要なことです。

大阪YMCAには英語が母語だったり、豊富な国際経験をもつスタッフが多くいます。また、GYC(グローバル・ユース・カンファレンス)、キャンプ、英語プログラムなど英語教育や国際理解教育を促進する優れたプログラムがあります。

このような豊かなリソースを活用し、これからの社会をリードしていける有為な人材がYMCAから巣立っていってくれることを心から願っています。



大阪府立
水都国際中学校・高等学校
副校長

ジョン ボットینگ
John Botting
(教育工学博士)

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み、平和で公正な世界をめざします。

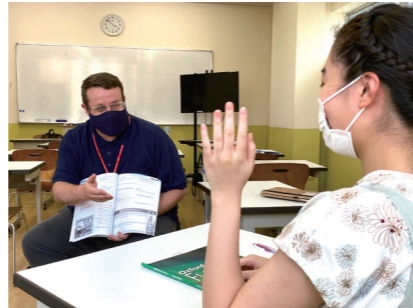
大阪YMCAランゲージセンターの中高生対象プログラムの紹介

大阪YMCAランゲージセンター 中高生・成人対象プログラムコーディネーター
エドワード ノット
Edward Knott

大阪YMCAランゲージセンターでは、中学生、高校生を対象にインターナショナル・ユース・プログラム (YIP) を開講しています。目的は、受講者一人ひとりが、英語を使う楽しさと動機を見つけ、自信を持ち、より良いつながりのある世界をつくる役割を担えるよう導くことです。

授業では、コミュニケーションで役立つ表現の習得、批判的思考スキルの開発、口頭でのコミュニケーション能力の向上に重点を置いています。定期的にテーマと目標を定め、達成するために英語を使用します。ディスカッションやディベートに加え、ゲームも行い、楽しく学びます。また、「リーディングサークル」と呼ばれる、受講者が興味ある本を選び、読んだ感想を皆で話し合う機会も設けており、いつも議論が白熱します。今後は、YMCAのネットワークを活用した海外のYMCAと交流できるプログラムをしたいと考えています。

受講者は、授業でのさまざまな活動とおして、グローバル化の進む社会に必要な、異なる文化や価値観に興味を持ち理解しようとする力、課題を見つけ解決する力、創造力、コミュニケーション能力を身につけていきます。成長していく彼らに寄り添うことは、私の一番の喜びで、とてもやりがいを感じています。



ユース※の声 vol.4

大阪YMCAインターナショナルスクール教員 クリスタ サリバン
Krysta Sullivan

大阪YMCAインターナショナルスクール(OYIS)で小学2年生を担当しているクリスタ・サリバンです。教員を始めて5年目になりますが、2年生を教えるのは初めてです。私は南フロリダ大学で初等教育学を学んだ後、ベトナムのホーチミン市で教職の道を歩み始め、「国際バカロレア(IB)」



とインターナショナルスクールに出会いました。そこで3年間、1年生と3年生を教え、その後フロリダの公立学校で1年間教えました。その間にIBと国際的な教育への思いが強まり、再び海外に目を向けるようになりました。日本はその美しさ、平和、文化において常に私の憧れの国でしたので、私のインターナショナルスクール探

しは、すぐに日本から始まりました。OYISが募集しているのを知り、実は願書提出の期限を過ぎていたのですが、意を決して学校に直接メールを送りました。OYISはIBカリキュラムだけでなく、YMCAの価値観も持っています。この2つは、生徒を第一に考え、体験と探求を通して教え、全人的なアプローチで心と体と精神を育てるという、私の教育理念と一致しています。ここに来て、この理想をいかに皆が体現しているかを実感しています。同じ志を持つ素晴らしい仲間たちと働いていますが、初日から快く迎えてくれ、居心地よく過ごすことができました。私はまだ学んでいる途中で、時には間違ってしまうこともありますが、ここでは誰もが私が道を見つけるのを手助けしてくれます。これからもOYISで働き、OYISコミュニティとの絆を深めていきたいと思っています。

※日本のYMCAでは18~35歳までの世代をユースと呼んでいます

YMCAストーリー vol.3 ~ともに創り上げる~

大阪府立水都国際中学校・高等学校 教員 ひらまつ りんだい
平松 凛大

私は2017年からの大学4年間、大阪YMCAのユースボランティアリーダー(以下、リーダー)として活動していました。リーダー活動を通して、多くの経験を得ることができました。中でも「ともに創り上げる」という経験は、水都国際で働くうえで、とても貴重なものとなっています。

リーダー時代は、メンバーと楽しみながら他のリーダーと協力し合い、スタッフと議論を交わしながら、それぞれの成長や学びにつながる活動を「ともに創り上げる」ことが好きでした。苦労しながらも、活動に関わるみんなが「よくなっていく」と実感できることがやりがいでした。

「社会に貢献する協創力をみがく」を教育目標とする水都国際で教員になった現在は、学級づくりや、体育祭、文化祭の企画などにおいて、生徒と教員が「ともに創り上げる」教育活動を行っています。生徒と協力し合いながら、ともに学び、成長することに喜びを感じています。このような活動を通して「ともに創り上げる」ことの価値や面白さを広げていきたいと考えています。



2021年文化祭実行委員より
(上段右端)平松凛大さん

私のSDGs vol.3

大阪YMCAグローバル推進室室長 ドミニク バングラッシオ
Dominic Pangrazio

大阪YMCAグローバル推進室では、大阪YMCAが実施しているユース対象のプログラムをSDGsとリンクさせ、それぞれの取り組みの意義を明確にしています。大阪YMCA国際専門学校語学・ビジネス専門課程では、地域や世界の課題解決に取り組む社会的起業家を育成するYouth For Causesプログラムを行っています。その中の一つのプロジェクトとして、学生が自ら企画して、環境に配慮したクリアファイルをデザインして販売し、収益金はYMCAのウクライナ人道支援募金に寄付しました。ウクライナから避難してきた人々の状況と支援が必要であることを多くの人々に伝え、支援を集めることができました。



SDGsジュニアリーダー養成キャンプ【アドバンスコース】実施報告

ユース事業部 徳島事業グループ 菅田 育
かんだ ひとし



「課題を見出し自分ごととして捉え、解決するための道筋を考える力を養う」ことを目的としたSDGsキャンププロジェクトは、2年目の開催となりました。今年は、SDGs17のゴールのうち「社会圏」の課題についてより深く考えるため、留学生を交えたグループ活動を行い、文化・様式・習慣の違いを理解すること、そして多様性の重要性を体感する活動に重点を置いて8月18日(木)~20日(土)に実施しました。

無人島での活動を中心としたグループ活動を通して、参加した中高生たちは、課題解決に向けた話し合い・試行錯誤を続けました。そして、自分が行動変容を起こすだけでなく、その自分の行動に対してどのようにしたら周りを巻き込むことができるのかを考え、さらに周りを巻き込まないと社会を変える動きにはならない、ということに気づいていきました。最後は、発信力を高め、行動に移す姿が見られました。2030年のありたい姿を見据え、1年後・5年後の自分自身について、今から何をするのかを考え、キャンプ後の日常生活で実行していく活動指針である“My Action Plan”を作成しました。参加者一人ひとりが、この指針を心のうちに留め、日々の生活の中で活かし、実践していくことを期待しています。



YouTubeで活動の様子を
ご覧いただけます



新しいYの動き ~サポートキッズ水泳療育【発達支援事業×ウエルネス】~

ユース事業部 南ウエルネス 並木 聡子
なみき さとこ

天王寺にある南YMCAでは、発達が気になる子どもの幼児教室「サポートキッズ」を行っています。普段のサポートキッズでは教室の中で器具を使った全身運動や手先を使うブロックや積み木などを使いながら、「走る」「跳ぶ」「つかむ」などの動きの習得を目指しています。今夏より週に一度の水泳療育を新たに始めました。

南YMCAの室内25mプールで、サポートキッズの子どもたちは保護者と一緒にプールに入り、コミュニケーションをとりながら水泳を習います。子どもたちは場所に慣れ始めるとリラックスして心も身体もどんどん開放的になっていきます。普段の生活では身体に力が入ってぎゅっと手を握ることが多い子どもたちですが、水の中では力を抜くことで体が浮くため、水泳を通して体の使い方を学ぶ機会となっています。水慣れや全身運動を目的に始めた新しいプログラムですが、水が苦手だった子も、顔を水につけられるようになったり、潜れるようになったりと成長が見えます。これからも新しいチャレンジをして、子どもたちができることを増やしていきます。



140周年記念コラム④

水泳事業の歴史

1917年(大正6年)、東京YMCAに日本で最初の室内プールが開設されました。このプールから新型バクストロークなどの近代泳法が普及され、1928年(昭和3年)のアムステルダムオリンピックで800mリレー銀メダルを獲得した高石勝男選手、戦後では1949年(昭和24年)の全米選手権で400m、800m、1500m自由形の世界新記録を樹立し「フジヤマのトビウオ」と呼ばれた古橋広之進選手などが合宿に利用しました。

大阪YMCAでは、1978年に高槻YMCAでアクアティックプログラムがスタートしました。一定の泳力がつくとも参加者の興味に合わせて、水球、アーティスティックスイミング、競泳、アクアティックスポーツを選択できるクラス設定がされました。選択クラスが多い分、各クラスは週に1~4回という少な



い練習回数でしたが、合理的・自主的な練習カリキュラムによって、全国のスイミングスクールでも珍しい、水球、アーティスティックスイミング、競泳の3種目で全国ジュニアオリンピックに出場しました。さらに、1992年には水深4メートルのダイビングプールでダイビング講習を始め、大阪YMCA社会体育専門学校でダイビングインストラクター養成コースも開校し、一般受講生を含めて多くのダイビングインストラクターを養成しました。

また、2002年には弁天町にあったみなとYMCAがWOA(ワールドオリンピックスアソシエーション)の大阪で唯一の協定施設となり、北京オリンピックの直前調整施設としてイギリスのスイミングチームが利用し、日本のアーティスティックスイミングチームのトレーニング施設としても利用されました。また、鈴木大地氏(ソウルオリンピック100m背泳で金メダル、初代スポーツ庁長官)やキーレン・パーキンス氏(バルセロナオリンピック、アトランタオリンピック1500m自由形で2連覇、オーストラリア出身)など多数のオリンピックがボランティアとして様々なレッスンを開催し会員との交流の場となりました。

ご寄付に感謝申し上げます

◎ ウクライナ人道支援募金

募金期間：2022年3月～8月

募金合計：1,200,276円

皆様からいただいた寄付金は、日本への避難を希望される方のサポートと来日後のケアや、ウクライナYMCA及びウクライナ近隣諸国のYMCAが行う避難者支援に用いさせていただきます。来日支援につきましては、8月25日時点で70組154名の支援を行うことができました。

皆様からお寄せいただいた寄付金で避難者支援活動が実現できていることに心よりお礼申し上げます。9月1日以降はYMCA国際協力活動支援金の一般募金による支援先の一つとして展開してまいります。引き続きご支援をお願い申し上げます。

◎ AQUA WATCH ASIA 寄付金

カンボジアでは毎日6人の子どもたちが水難事故でのちを失っています。大阪YMCAでは、カンボジアの子どもたちを水難事故から守りたいと考え、カンボジアの子どもたちに水泳指導をしたり、救命具を寄付するAQUA WATCH ASIAというプロジェクトに取り組んでいます。大阪ワイズメンズクラブの傘下大盛様よりこのプロジェクトに対して寄付金をいただきました。現地での水泳指導のために用いさせていただきます。ご支援に感謝申し上げます。

◎ 留学生支援金

鉄谷 明様より、国際奨学支援金のご寄付をいただきました。寄付金は未来に希望を持ちチェンジメーカーとなる青年の育成を目的として、成績優秀な私費外国人留学生のために用いさせていただきます。

また、サウスワイズメンズクラブ様からクラブ創立65周年を記念して、南YMCA日本語学校留学生支援金として寄付金をいただきました。コロナ禍で本国からもオンライン授業を受講できるように、PCをはじめ必要機器の整備に用いさせていただきます。

コロナ禍や苦しい経済状況の中にいる留学生のために多大なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

インフォメーション

大阪YMCA大会

日時：2022年11月23日(水・祝) 10:00～12:30(予定)

場所：大阪YMCA会館(土佐堀) 及び オンライン(予定)

大阪YMCAの活動報告、会員表彰者紹介、交流プログラムを予定しています。

交流プログラムでは、メタバース(仮想空間)の可能性を模索し、大会後にも会員・ボランティアがつながることができる場所づくりにチャレンジします。また、大阪YMCA150周年に向けたパネルディスカッションも行います。

参加方法、開催の詳細は11月に大阪YMCAホームページでお知らせいたします。

大阪YMCA 統括本部 総務

TEL：06-6441-0894

E-mail：info@osakaymca.org

第342回 早天祈禱会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

日時：2022年10月21日(金) 7:30～8:15

証し：片山 聡子さん(土佐堀YMCAアフタースクール 事業長)

場所：大阪YMCA会館(土佐堀) 10階チャペル

※朝食はありません。

※中止の場合は大阪YMCAホームページ「NEWS 新着情報」でお知らせいたします。



大阪YMCA 統括本部 総務

TEL：06-6441-0894

E-mail：info@osakaymca.org

ユースリーダー安全支援金へのご協力に感謝申し上げます。

2022年8月度報告・敬称略

上田 和實
鶴川 まり子
内田 直美
内山 雅文
大日野 隆司
小川 健一郎
貝 容子
河内 勇人
河部 智子
北野 瑞季
楠本 圭子
西海 博之
サウスワイズメンズクラブ
四方 陽子
重信 直人

末岡 祥弘
杉原 育夫
杉村 徹
杉山 聡子
勢井 智子
妹尾 直子
高木 由美
多々納 直子
立山 英展
谷川 雅則
谷口 京子
寺岡 博也
土肥 とも子
豊崎 裕史
中島 みき

中村 佳絵
橋本 恵典
島 保
比嘉 幸
平井 あつ子
牧野 雄市
松野 時彦
三本 香
村山 尚紀
森井 稔輝
山田 弥子
山地 弘伸
吉岡 祐理
吉田 絵理

会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2022年8月度報告・敬称略

【継続会員】

宇楚 充洋
島田 真一
谷川 寛

中井 正博
久岡 美弘
藤岡 宏樹
堀田 寛人

【継続賛助会員】

象印マホービン株式会社
株式会社扇谷
株式会社テツタニ

大阪YMCAのホームページでその他の情報をご覧くださいませ。

